#### 読書っ 7 61 しり も $\widehat{\phantom{a}}$ ~三年)

読書指導を通して学習実感を与える-

# 読書の価値を実感させる

3

につけるべき言葉の力)を指導する」ことが大切である。 のよさとともに「このことを学んだ」という学習実感を与える かかっている。そのためには、計画的な読書指導を通して、 中学生への読書指導は、 つまり、本の魅力に力を借りて、 読書の価値をいかに実感させるかに 「指導すべき内容 本

### 実践1 継続的な指導で学習の下地をつくる

ピーチ」など)を使って、ノー を友だちと交流する。これには、次のようなねらいがある。 月末に、さまざまな表現手段 (「ポップで紹介」「マイベスト本ス びきのもと、後述の内容を三年間に渡って日々書き記していき、 ともに、相応の努力が必要となる。『読書ノート』は、細かな手 「読書習慣をつける」と言うのはたやすいが、学習者・指導者 学習実感を得ながらすすめる『読書ノー トに書きためた情報や自分の考え ト』(一〜三年)

- 自らの読書傾向を自覚するとともに、 や情報収集の仕方に学び、 次の読書へつなげる。 友だちの読書傾向
- 2 目的に応じて本を選び、その目的に沿った読み方を選択 自ら読み進めていく力をつける。

とその効果②引用・要約について③人を引きつける紹 〈奥付の読み方〉に加えて、①キャッチコピーの作り方 えば、「ポップで紹介」であれば、本の基本情報の見方 まざまな表現方法を学習し、自分の表現に役立てる。 自分が得た情報や、 介の仕方を学習する。) 自らの考えを効果的に表すため の さ (例

⑤手びき、プリントなど⑥手びき、プリントなど友だちとの読書交流を行う。 友だちとの読書交流を行う。

「読書ノート」記入のポイント ①読みたい本 ②読んだ本 実際に読んだ本 実際に読んだ本 実際に読んだ本 実際に読んだ本 実際に読んだ本 実際に読んだ本 実際に読んだ本 実際に読んだ本 まだまや家族と 組の感想、友だちや家族と 組の感想、友だちや家族と 組の感想、友だちや家族と に関する話題、愛読書 や蔵書紹介、本屋さん探検 記など、読書に関すること なら可 なら可と ならずと ならがと ならが



▲ 批判的な読みの必要性、語彙の増量を自覚した 『読書ノート』 例

国語科の学習と計画的にリンクさせながら本実践を継続す 指導者が各学習者の読書傾向を捉え、 スを行うことで読書の幅を広げる。 効果的なアドバ 7 Ź

4

ことで、 書の質の向上という点においても有効な取り組みである。 言葉の力をつけながら、本を見る目が育ってい 読

本の貸し借りが活発に行われ、 みんなの癒しの場をつくる。

现在

解決の方向性

b所の混雑を避ける。

利用者在 增为寸。

. 図書館のようにスムーズに借りかね ようにする。

## 実 践 2 自らの力で読書生活を切り開いていく

を抱える現状を学習材料にし、 の育成を図った。学習の流れは以下の通りである。 流れを仕組むことで、 学校図書館にするための工夫を考え、提案し、改造するという 習者の読書生活の支えとなるべき学校図書館のさまざまな課題 の場面に即した必然性のある学習が展開できる。ここでは、学 読書生活全体を視野に入れて学習活動を考えていくと、 自分たちの手で学校図書館をつくる(三年) 自分の考えをまとめ、表現していく能力 使い勝手のいい、 親しみのある 現実

- ①公共図書館を訪問、 活用して作成) トを作成する。(一年P136「レポー 利用者のための工夫を探し、 トにまとめる」 図書館レ を
- ②①を通して考えた改造のアイデアを交流し、 どのアイデアを生かすかを話し合いで決定) 分たちの学校図書館を見直す。 (獲得した知識を交流し、 もう一 度自
- ④各クラスの代表の企画書をもとに、 ③企画書一枚を作り、 活用して発表) の書き方」を学習し、 プレゼンテー 二年 P 98 「プレゼンテ ションを行う。 ーショ (「企画書 と

を

造に取り組む。(学校長に企画を提案 →話し合い→ 実行) 実際に学校図書館の改

0)

#### 目ざす姿

○○中変えなれるます!

現状の課題

利用者としては時間がかからないほど次も利用してくれる。

利用者の約1年分が借りる目的で利用している。

▲学習者が作成した企画書例

最近、以前よりもカウンターが混雑しているように感じま す。本を借りる人が以前よりも多くなっているのはよいこ となのですが1ヵ所しかないカウンターで1つの作業をす

ることは係の人が混乱するもとでもあるし、他の利用者に も迷惑をかけてしまうのではないでしょうか。また、 カウンターの中で1つの仕事に何くもの人がいても効率が

とても悪く幅を取るだけだと思います。これでは時間がか

かり、他の利用者に迷惑がかかる可能性状大き、なります。

誰にでも利用しやすく、さかに利用者が増える… その名も カウンター2つでスムーズ大作戦会

れるのかと思っていたけれど、やり出すと止まらないんですよ。(中略)だけはとってもはかどりました。一年生のとき、こんなことをやらさ たくさんのことを教えてくれたし、学ぶことができました 今まであまり敏感ではなかった本のこと。この三年間でわたしは大好 でした。わたしはあまり勉強が得意なほうではないけど、読書ノ きになりました。読むこと、書くこと、考えること…。 わたしにとっての読書ノー トは、勉強の一部ではなく、 読書ノ 生活の一部 は

実感できるものでありたい。そして、読書という行為が 読書指導は、自分の力の伸長に手応えを感じつつ読書の価値を 確に位置づけながら、さまざまな言語活動の設定を可能にする。 部 読書生活を教材化する視点は、 になれば、 こんなに心強いことはない。 身につけるべき言葉の力を明 「生活

▲『読書ノート』からの抜粋

15

14

新しい指導を考える会